

R2・8・11

第1号

通巻150号

学院通信

発行
金光学院
719-0111
岡山県浅口市
金光町大谷1486
TEL (0865) 42-3115
FAX (0865) 42-3114



求道の日 (学院長講話)

「新型コロナウイルス感染症の中で」

学院長 高橋 寛志



今年、新型コロナウイルス感染症が流行する中、男子八名、女子五名の学院本科生が今日まで修行を進められていることは、真に有り難いことである。入学できるかどうか危ぶまれていただけに、大変なおかげを頂いたと思っている。

新型コロナウイルス感染症は社会状況を一変させてしまった。感染拡大防止のため、外出自粛が要請され、多くの人が集まる行事は中止にしなければいけなくなり、経済活動にも影響が出ており、先が見えない状況である。教会も祭典を遙拝にしたり、仕えられても参拝者が少なくなったり、いろいろな行事も中止になったりしている。こうした中で、如何に人を助けていくか、布教していくか、模索し、生み出していかなければならない。

教祖様は、様々な布教の困難を乗り越えて行かれた。一切を神様の差し向けと受けて、おかげにしていた。そういった教祖様の信心に倣い、この度のことも、おかげにしていきたいと思う。金光教は、少し前から布教力、救済力が落ちてきたと言われてきた。それは、一般社会に生きる人たちとの接点が少ないことが一つの原因であるように思える。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により、祭典に参拝しにくくなった人に対する配慮として、YouTubeなどのインターネットを使った動画共有サービスに祭典や教話を載せる教会が増えてきた。そうすると、その人だけでなく、家族も一緒に見てもらえるメリットがあるという報告を聞いた。それに加え、一般の金光教を知らない人にも見てもらえる可能性が広がったように思うのである。

つまり、一般の人にも金光教の信心を分かるように語りかける場が生まれ、金光教と一般の人を結ぶ接点ができたと言える。そうすると、その次に求められるのが、そういう場で一般の人に通用し、引き付ける話が出る教師である。これからは、そうした教師育成をも模索していかなければならないと感じている。

学院修行について

学院次長 坂口 光正

本年は、新型コロナウイルス感染拡大により、全国に緊急事態宣言が発令される中、男子八名、女子五名、十三名の本科生が、全員無事に入学するおかげを蒙らせていただきました。

前例のない事態に際して、保証教会長先生のご指導の下、入寮までの二週間を不要不急の外出を控えていただき、それぞれの在籍教会で修行をしていただき、その間、本人はもとより、教会ご家族の検温や健康の管理までお願いし、



本科入学式 (本部広前御祈念)

入寮時は、車で送迎していただくなど、教会長先生はじめ関係各位のお祈り添えとご協力があつてのことであると感謝しております。

入学後も、本部広前への朝夕二度の参拝時には体温を測定して、マスクを着用しての参拝とさせていただきます。また、金光町外への外出は禁止とし、外部の方との面会については、原則として教会家族に限定させていただきます、必ず事前に学院へ連絡していただくようお願いしております。さらに、学院広前と本部広前、及び教室棟では、「極力「三密」を避けるようにソーシャルディスタンスをとって、教壇にも飛沫防止のアクリル板を設置するなどの対策も講じております。

今年度は、毎年参加させていただいておりました金光教広島平和集会在、縮小開催となったため、学院から遙拝させていただくこととなりました。感染の拡大状況によっては、今後もこのようなカリキュラムの変更の可能性もございます。



信行輔導期間 (参拝)



学院長寮内巡回

しかし、毎朝、本部広前に参拝し、教主金光様の御取次をいただき、学院広前での御祈念、授業、炊事、洒掃など、伝統的に続く学院修行の基本は揺るぐことなく続けさせていただいており、真にありがたいことと存じます。

ここからも新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を祈念させていただきます、こういう時代状況だからこそ、どこまでも神様に心を向けていくあり方を共に求めさせていただきますと願っております。

尚、特科につきましては、感染拡大の影響により、九月に入学審査を行い、十一月から十二月にかけての一か月間の実施に変更となりました。引き続き、関係各位のお祈り添えをお願いいたします。

一日の信行内容

(時間)	(信行内容)
5:20	起床
5:40	参拝出発
6:00	本部広前御祈念・洒掃
7:30	朝食
8:30	朝の課業
9:00	午前の課業
11:50	洒掃
12:30	昼食
13:30	午後の課業
15:20	参拝出発
15:40	本部広前御祈念・洒掃
16:40	お退けお見送り・洒掃
18:00	夕食
19:00	夜御祈念
21:00	自修・入浴
22:00	閉門消灯

人事関係

- ・書記笠井佳実子、十二月一日付で助手に任命。
- ・教師中西教幸、五月一日付で講師任命。(教学研究所から異動)
- ・助手仁科明日見、五月一日付で講師任命。
- ・講師加藤実、五月十四日付で辞任。

講義科目・担当者

教会・布教科目	教団科目	教祖・教義科目	信修科目
結果取次 直信・先覚 直信・先覚 教会活動(各種活動) 礼典(祭式) 礼典(祭式) 礼典(祭式)	教団史 教制 教団活動	教祖 教義	本教概説
金原 光三 中西 教幸 眞田奈保子 安部 美雄 仁科明日見 堀江 芳則 田中 照彦	利光 康二 加藤 実 三好 光一	坂口 光正 佐藤 光貴	高橋 寛志

「しまぐれの歩み」

■信行輔導期間

学院では、年齢や経歴、育った環境が異なる者たちが、「お道の教師にお取立ていただきたい」という同じ願いの下に集い、同期生として一年間の修行を進めていく。その学院生が、基本日課を習得し、修行としての学院生活を進めていくために、学院では、入寮してからの十日間を信行輔導期間と定めている。本年度も、前年度の卒業生であるOBから、奉仕・待命・炊事・洒掃などの生活全般の指導を通して、本部広前の修行生としての在り方を学んだ。

OBの方々による実意で行き届いた指導により、本年度も順調にスタートを切ることができた。御用に当たっていただいたOBの方々には改めて御礼を申し上げたい。本年度のOBは以下



信行輔導期間 (洒掃指導)

の通り。(敬称略)

- 神田 道雄(広島・竹原) 橋本 美子(京都・伏見)
- 熊谷 元喜(山口・柳井) 佐田日出子(福岡・仲原)
- 佐田 満喜(福岡・仲原) 日吉 祐里(福岡・芦屋)

■大掃除 (畳上げ)

学院では、信行輔導期間を終えた後、大掃除として畳上げを実施している。本年度は、講堂階下と作礼室の畳を屋外に運び、数時間、天日干し後、叩いて埃を落とし、元の位置に戻す作業を一日かけて行った。天日干しをしている間も、寮周りの草抜きなどを行い、これから一年間使わせていただく敷地、施設を整えさせていただいた。



大掃除 (畳上げ)

OBの方々や学院を去り、一抹の不安を抱える中、学院生全員で協力して作業を進めることができ、それぞれが自覚を高めることができたように思う。

■第一・二回「求道の日」

学院生活の基本に立ち返り、自己の信心を正していくことを願い、原則として月の

朔日を「求道の日」と

定め、一日のはじめに教主金光様のお出ましを迎えさせていただきます。

終日黒衣で過ごし、講話、共励、覚筆写、徒歩行等を実施している。

第一回は、『金光大神覚』の筆写に取り組み、教祖様ご帰幽後、教祖様の開かれたこのお道の真髓を理解し、後世に正しく伝えてくださった金光四神様や佐藤範雄師、近藤藤守師といった直信、先覚、先師の営みを追体験した。

第二回は、午前中の三時間、学院長先生の講話を拝聴し、午後から講話の内容を元に、信心共励会を実施し、それぞれが内容を深めることができた。

■作法研修

作法研修は、日常生活における基本的な和式作法を学ぶことを通して、礼節と慎みの心を涵養し、学院修行に資することを願いとして実施している。

今年度も、文化活動講師でもある金光健子師を講師に迎え、和式作法の講義、



求道の日 (覚書筆写)

実習を実施した。

前半は、講堂階下で和室の入り方、掛け軸の掛け方、しまい方を習い、後半は、学院広前で、和室での作法や心得、食事の作法を学んだ。そして、実際に学院広前で

昼食をいただき、膳の運び方・受け取り方や食事のいただき方などについて先生のご指導をいただいた。学院生にとっては、はじめて習うことが多かったようで、苦戦しながらも真摯に取り組んでいた。



作法研修 (食事)



作法研修 (掛け軸)

■図書館見学

金光図書館の働きとその利用法を学ぶために、図書館見学を実施している。

はじめに、金光英子図書館長より、金光図書館の働きについての説明を受け、

グループごとに館内を見学した。閲覧コーナーだけでなく、普段は出入りできない書庫の中も見せていただき、青い鳥点訳グループの点訳や音訳の活動も見学した。学院生たちは、金光図書館の想像以上の働きに驚いたようである。また、見せていただいたものの中に、自身の祖父母など身近な先輩教師の教話を見つけ、「ぜひ聞いてみたい」という声も聞かれた。



図書館見学

今後とも、それぞれが図書館を積極的に活用して、教師を目指すものとして研鑽を積んでもらいたいと願う。

■聖蹟巡拝

聖蹟巡拝は、教祖様ゆかりの地を訪れ、教祖事蹟への理解を深めることを願いとして実施している。

七月四日には、本科生が三グループに分かれて、木綿崎山周辺を巡り、教祖奥城、立教聖場、歴代教主奥城、小野邸跡などの聖蹟を巡った。学院生たちは教祖様の時代に思いを馳せながら、改めてご

霊地にある一つひとつの聖蹟を興味深く見学していた。

この他、

今秋には、教祖様のご生家や西大寺観音院、吉備津神社、沼名前神社等を訪問する予定である。

■平和学習

学院では、世界真の平和達成の祈りを新たにし、具体的な取り組みにつながることを求めています。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年参加させていただいた金光教広島平和集会が遙拝による開催となり、同集会が開催される七月十一日に学院内で平和学習を実施する



聖蹟巡拝

平和学習 (DVD 視聴)



ことにした。平和学習当日は、被爆体験談などの映像資料を視聴し、その内容を元に「平和のために、私ができること」というテーマで共励会を行った。そして、最後に学院広前にて、金光教広島平和集会で奉唱される拝詞(平和祈願詞、原爆死没者霊前拝詞、平和の祈り)を奉唱し、平和への祈りを捧げた。

ヒロシマへ赴くことはできなかったが、学院生それぞれが平和への関心を持ち、信仰者としての慰霊と平和への祈りを確かにしていくこととなることを願う。



平和学習 (折り鶴)

■自主活動

学院では、日々の信行に加えて、学院生が願いを立てて自主的な取り組みを行っている。

本年度は、前期前半から、共励会やスポーツ大会を企画、実施し、それぞれが交流を深め、研鑽を積むことができた。全教勢をそろえて社会奉仕の日である

七月十八日、本年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、ご霊地全体で揃ったの清掃活動は実施しないことになったが、学院生が自主的に社会奉仕の取り組みを企画し、金光町内の洒掃や境内の芝刈りを行った。

今後も、様々な活動を通して、自らが求め考え、行動する力を養っていくことを願っている。

■文化活動

学院では、教師としての基礎的素養を身につけ、深い人格形成に資することを願いとして、文化活動を設定しており、学院生は、典楽、華道、茶道、書道のいずれかを選択し、毎週水曜日の午後 realism



自主活動 (スポーツ大会)



自主活動 (社会奉仕活動)

施している。

典楽／九名 (男子四名 女子五名)

典楽は、

第五名、笙
一名、龍笛
三名が選択
しており、

金光教典楽
会より金光
あかり師・

岡田信義師
を講師に迎

え、稽古に
励んでいる。

初めて楽器

に触れる者も多い中、秋と春に執り行われる学院の霊大祭で神様に喜んでいただけるよう、真心を込めた稽古を積み重ねている。



華道／一名 (男子一名)

華道は、早川サナゑ師から池坊の流派の正風体生花、新風体生花、自由花等についてご指導いただいている。早川師の丁寧な講義・指導のもと、季節の草花に触れる中で命の尊さを感じ、一本一本の

花の美しさを最大限に

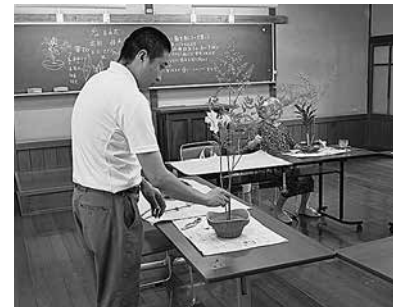
生かせるよう、心を込

めて生ける稽古に取り

組んでいる。稽古後の

作品は、学院広前や教室に飾られ、学院内に彩りを

添え、見る人の心を和ませてくれている。



茶道／一名 (男子一名)

茶道では、金光健子師を講師に迎えて、数ノ内の流派に触れている。

季節感溢れるお道具と、美しく、そして美味しいお菓子に心弾ませつつ、稽古に励んでいる。

講師にしっかりとご指導いただき、回数

を重ねるごとに作法が

様になってきているようである。

お茶の心



を大切に、お茶会を目標に、引き続き精進していきたい。

書道／二名 (男子二名)

書道は、中桐真彦師のご指導の下、稽古に励んでいる。毎回、先生がお手本を用意していただき、それを何度も稽古し、添削を受け、清書を仕上げていく。書く度に、上達している様子が何うことができ、改めて、稽古の大切さを実感している。

本年も、生神金光大神大祭に合わせて学院書華道展を開催させていただき予定であり、ひとりひとりが思いを込めた字を書いた

半切を展示する。また学院合同茶会では色紙

に好きな字を書いて披露する。今後とも先生

のご指導を仰ぎ、稽古に勤しんで

願っている。



日程

(夏期在籍教会実習まで)

5月	14	本科入寮式
	15	本科入学式
	15	信行輔導期間
	24	6/1 実践課題設定週間
	25	大掃除 (畳上げ)
	27	授業開始
	29	消防・避難訓練
6月	1	第一回 求道の日
	3	文化活動開始 (毎週水曜日)
	8	作法研修
	11	15 教団独立記念祭御用奉仕
	18	図書館見学
7月	3	第二回 求道の日
	4	聖蹟巡拝 (木綿崎山周辺)
	6	学院長寮内巡回
	11	平和学習
	19	第一回 部屋替え
	27	29 第一回 定期考査
	31	第一信心レポート懇談
8月	6	10 少年少女全国大会御用奉仕
	11	9/1 夏期在籍教会実習

学院生の声



神様に心を向ける生活



大阪府・真砂教会
福嶋 眞明

学院での修行生活を送らせていただき、まず感じたのが、不自由を行とするという中で、今まで当たり前のように行ってきたことやそうした環境が、当たり前でなく、ありがたいことだったということです。

そして、同期生と日常の起居一切を修行として修行生活を送っていますが、人間は十人十色であり、一人一人、顔も性



消防・避難訓練

格も物事の考え方も違います。学院の前期の修行目標である「神に心を向ける」ということを念頭に人と接しさせていただと、人の良いところが見えてきたり、一人一人の個性を認めることができ、心豊かな生活が送れるようになってきました。

人の行動には必ず背景があると思います。なぜそのような行動をとるのか、なぜそのような発言をするのかを、「神に心を向ける」中で、人の話を傾聴し、お互いを認め合うことで、新たな発見があり、成長させていただけられるのではないかと思います。

日常に起こる全ての出来事も、そのように見させていたことで、より良い信心生活になってくると思います。

学院での一年は長いようで短いと思います。ここからもしっかりと「神に心を向ける」という修行をさせていただきたいと思えます。

祈りあう心



和歌山県・和歌山教会
澤井 薫

私は、学院に入学する前、社会人として働いていました。私にとって、社会人



教団独立記念祭御用奉仕 (調饌係)

とは自分のする事に責任を持ち、自分のことは自分でしなければいけないと思ひ込んでいました。そう思ひながら仕事を進めていくうちに、私は自分で自分を追い込んで、体調を崩し、結局、退職することとなりました。それでも、「自分ではなければいけない」という思いを考え直すことはできませんでした。

そんな私が学院に入学して、一番ありがたく思わせていただいているのが、同期生の皆の親切で思いやりのある行動です。よく体調を崩す私を支えて下さり、また祈って下さっています。きっと神様が同期生の思いやりを通して、自分の限界を知ること、そして無理をしない大切さを教えてくださっていると感じずにはいられません。自分だけで背負わず、無理せず人にも頼らせていただくと考え直すことができました。また、私も同期生の皆をはじめ、人のことを祈らせていただいて、相手の事を思いやる行動を起こしたいと思っています。

修行はまだ始まったばかり、ここから少しずつ自分なりに神様へ心を向けさせていたいただきたいと思えます。



聖蹟巡拝

令和2年度 教区別入学者数 ()内の数字は男/女

